―――― 大学図書館界の動き

第1回日米大学図書館会議開催さる

国立大学図書館協議会，公立大学図書館協議会，私立大学図書館協会の合同主催で，第1回日米大学図書館会議(The 1st Japan-U.S. Conference on Libraries Science in Higher Education）が，5月15日（木）から5月19日（月）まで東京プリンスホテルで開かれた。参加者は，米国側20余人，日本側国・公・私立あわせ260人程であった。議題は ①大学教育における大学図書館の役割および利用 ②図書館員の専門教育および人物交流 ③図書館活動の機械化等であった。戦後のわが国図書館の再建発展には米国図書館界の積極的な好意と協力を忘れることはできないのであるが，この日米大学図書館会議の開催は，これまで断続的・個別的にとどまっていた両国図書館の相互協力が組織的な交流の軌道に第一歩をふみ出すものとしてきわめて注目される。

―――― 特別講演会

3月末，「京都民俗志」の著者井上頼寿氏と，古活字版の研究等で知られる書誌学者川瀬一馬氏による二つの講演会が本館会議室で開かれ，いずれも得るところが大であった。

京都の習俗について　井上　頼寿氏

3月29日（土）午後1時半～3時半

冠婚葬祭のうちもっとも伝統が残っている習俗は「葬」であるということで，講演は京都の葬式関係が中心となった。ひと言に仏式といっても神道その他の要素も混入されている等氏の深いご造詣に裏づけられたお話は大変興味深くうかがわれた。

五山版について　川瀬　一馬氏

3月31日（月）午後2～4時

五山版は鎌倉・室町時代京都五山を中心に禅僧によって出版されたのであるが，氏が実見・確認されたものによると，禅籍が200部，異版100部を加えて300部位，漢籍が80数部で，この中刊記のあるのが120部位とのことである。その特長として，他の古版に比して補刻が多い，版式・字様が書いたとおり板下を彫るという日本版本の本流にひとり離れて，宋・元・明版の覆刻を土台としているため中国式に統一されていることなどがのべられた。

五山版についての氏の研究は今秋にもまとまって出版の予定とうかがったが，そうなれば，大屋徳城氏の南都版研究，水原堯栄氏の高野版研究，氏の古活字版研究等とあいまって，日本古版についての研究はひとわたり網羅されることになり，非常に待ち遠しく思われる。

一言・ふたこと

本館書庫拡大の思想

浜　田　啓　介

私はこの二年程の間に，学内十の部局の図書室と，十五箇所の書庫のお世話になった。その歴訪が可能であったのは，附属図書館の書名カードのお蔭である。私は，各部局・研究室の図書を網羅集中したこのカード群を，ここが総合大学である事の，随